

# 特別支援学校 25年ぶり新設

2015-4-15 朝日新聞



県立掛川特別支援学校が14日、掛川市に開校した。特別支援学校の本校開校は県内で25年ぶり。15日には吉田町に吉田特別支援学校も開校する。身体が不自由だったり、知的障害があったりする子どもを対象にした特別支援学校の児童生徒数は近年増えており、県教育委員会は今後3年でさらに施設整備を進める。

## 掛川で開校式

きょう吉田も

掛川特別支援学校は掛川市杉谷南1丁目の市立総合病院跡に建てられた。病院跡は市が「希望の丘」と称して、医療、福祉、保健、

開校式でダンスを披露する小学部の児童ら。掛川特別支援学校

教育の拠点として整備を進めている。同校は知的障害と肢体不自由の子どもたちを対象にしており、小学部、中学部、高等部に計169人が通う。14日の開校式典では小学部の児童がダンスを披

## 県教委、さらに整備へ

### 対象の子、10年で大幅増

掛川と吉田の開校を受け、県立特別支援学校は本校だけで23校になる。別に分校や分教室が15カ所。国立と私立も各1校あり、幼稚園から高等部まで昨年度は4752人（訪問を含む）が通った。10年前の3520人、5年前の4190人から大幅に増えており、教室不足や、長い通学時間が課題になっている。

県教委特別支援課の木川誠課長補佐は、特別支援学校への入学者の増加を「保護者がきめ細かい専門的な教育を求めるようになり、支援が必要な子どもの通学や社会参加が可能になった」とみている。県教委は今後も老朽校舎の移転改築を進める。2017年に西部特別支援学校（浜松市北区）、18年に東部特別支援学校（伊豆の国市）の新校舎が完成する予定だ。

掛川特別支援学校の開校

て、新しい教室で一生懸命学習し、運動場ではつらい仕事にも耐えることができ体力をつけたい」と抱負を語った。

15日には、旧吉田高校（吉田町片岡）を改修した吉田特別支援学校が開校する。同校も知的障害と肢体不自由の子どもたちが対象で、約120人が通う。

露。深沢裕子校長が「特別支援学校の子どもたちは住んでいる地域と学校のある地域という二つの地域を持っている。学校ができてよかったと言ってもらえるよう、地域とつながる学校づくりを進めたい」と述べた。児童生徒を代表して高等部1年の榛葉翔也君が「自分の夢の実現に向かっ

理由は、袋井特別支援学校の児童生徒増のほか、掛川、菊川、御前崎3市から通う子らの負担軽減もあつた。木川課長補佐は「長時間姿勢を維持しにくい子どももいる。御前崎などから片道1時間半かけて通う負担は大きかった」と話す。県教委は重度の肢体障害が対象の4校で寄宿舎を用意し、県内全校にスクールバスを原則3台ずつ配置。今年度は5台増の63台が県内をカバーするが、保護者が自力で送迎しなければならぬケースもある。国は、障害のある子どもがいずれも地域の学校と一緒に学ぶ「インクルーシブ教育」を推進。県教委でも議論が始まっている。木川課長補佐は「特別支援教育が関与できるのは、主に小中高の12年間に過ぎない。学校と社会をつなげる職場実習や作業学習を取り入れ、地域や支援団体などの連携を進めたい」と話す。（岡田和彦、大内悟史）